

## ケアマネジメントプロセス

アセスメント プランニング モニタリング

### アセスメント

実地指導におけるアセスメントの実施状況の確認は、アセスメントシートの有無で成される。アセスメントとは、利用者が抱える生活課題（ニーズ）を明確にすることである。その上で、アセスメント結果や利用者、家族の希望を反映した目標を設定し、その目標の達成のための介護プログラムをプランニングしなければならない。これが個別サービス計画である。実地指導でのチェックポイントは、アセスメントシートの枚数と個別サービス計画の枚数が同じ枚数があるかということになる。



### プランニング

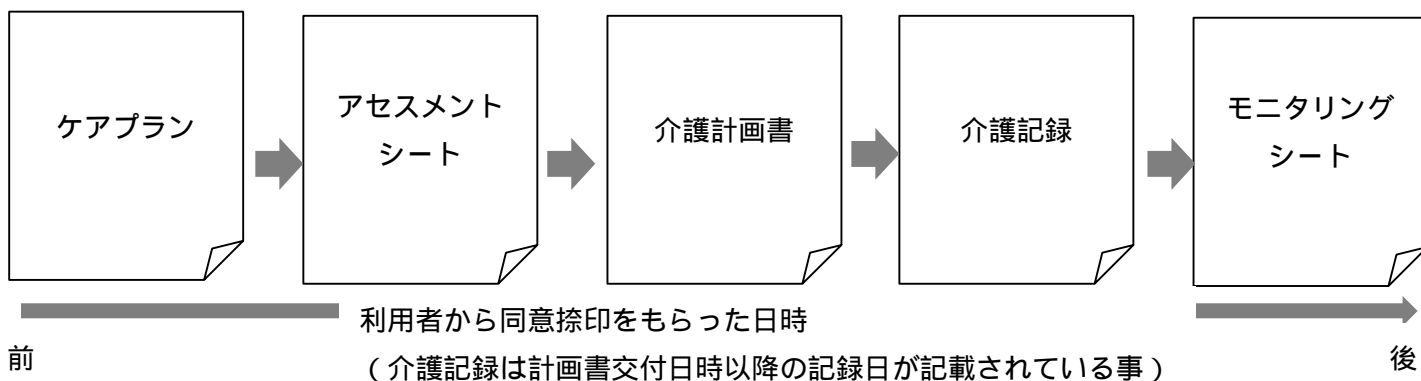
アセスメントを行わずに作成された個別サービス計画は、ケアマネジメントプロセスに従った計画ではないために否認される。また、ケアプランの目標を丸写しとした長期目標、短期目標も否認される。理由は、アセスメントを反映した目標を設定しなければならないためである。個別サービス計画の作成者は、運営基準で定められている。例えば、訪問介護計画はサービス提供責任者。通所介護計画は管理者である。個別通知で特例も認められており、通所介護は、生活相談員等が管理者と共同作成という位置づけで計画の作成を担当できる。規定で定められた者以外は計画を作ることが出来ず、他の者が作った計画は認められない。



### モニタリング

モニタリングの役割の一つに、個別サービス計画の目標の達成状況の評価がある。目標が「達成」と評価された場合は、その計画の役割は終了である。この場合は、アセスメントから新たな目標を立てた新しい計画の作成というプロセスに戻る。「未達成」評価では、計画の目標が達成されていないために、現在の計画は継続となる。ただし、長期間にわたって未達成の目標は不適切とされ、達成可能な目標に変更した新しい計画の作成が必要となる。

以上から介護サービスが提供されている事を証明するには以下の流れでなければならない



# リスクマネジメントにおける4つの領域とハインリッヒの法則との関係

事故が起こる頻度

Aゾーン

よく起こるが、小さい事故

打ち身内出血、爪切り等の裂傷、与薬忘れ、すり落ち、ひざまずき

軽微な事故 29件

Bゾーン

よく起こり、大きい事故(あってはならない事故)

誤飲、誤食 誤嚥など、その他スタッフのミスで起こる事故

心理的ダメージ

Cゾーン

あまり起こらず、小さい事故

ヒヤリハット  
(300件)

Dゾーン

:あまり起こらないが、大きい事故

誤嚥による窒息死、ベランダからの転落死、誤薬による死亡

重大事故 1件

軽微な事故 29件 (Aゾーン)

ヒヤリハット事故 300件  
(Cゾーン)

重大事故 1件  
(Dゾーン)

ヒヤリハット事故  
300件 (Cゾーン)

軽微な事故 29件  
(Aゾーン)

よく起こり、大きい  
事故( Bゾーン)

この領域を徹底的に  
潰していく

重大事故 1件  
(Dゾーン)

限りなくゼロに近づける

